



ワクチン接種が各国経済にもたらす影響

—先進国との接種ペースの差が新興国経済にさらなるダメージを与える恐れ—

鹿庭 雄介

ポイント

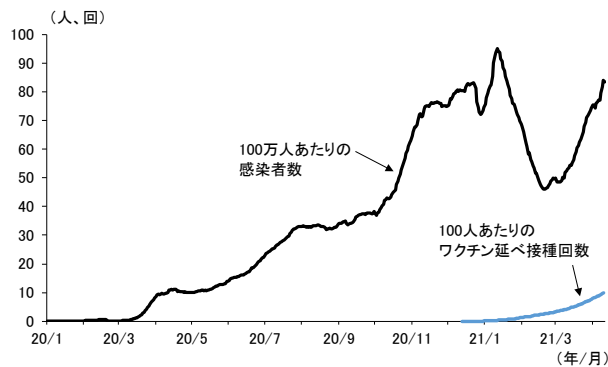
- ▶ 新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、昨年末からようやくワクチン接種が始まった。しかし、世界全体でみた接種回数はまだ少なく、ゆえに集団免疫の獲得はかなり先になると予想される。
- ▶ 速いペースで接種が進む欧米先進国では、感染者数が一時期より低く抑えられている。ただ、どの国も厳しい移動制限を続けており、必ずしも感染者数減が接種の効果によるものとも限らない。
- ▶ 他方、新興国では接種の遅れが目立っており、先進国との景気回復力に差が生じることで、資金流出や自国通貨安圧力が強まる恐れもある。ワクチン接種の進展にともなう感染者数、移動制限、人出の動きは各国経済の今後を占う上で重要であり、その先頭を走るイスラエルに注目が集まる。

1. 世界全体のコロナ感染状況

新型コロナウイルスの感染拡大が続いている。今年に入って世界全体の1日あたり感染者数は減少傾向にあったものの、変異株の広がりなどから3月以降急増し、足元では60万人超（人口100万人あたりで80人超）とピーク時の水準に近づきつつある（図表1）。

こうした中、昨年末から始まったワクチン接種がコロナ禍に苦しむ国々にとって大きな希望となっている。ただ、世界全体のワクチン延べ接種回数は7.7億回（100人あたりの延べ接種回数は9.9回¹、4月10日時点）とまだ少なく、世界全体が集団免疫を獲得するのはかなり先になると予想される。

（図表1）感染者数とワクチン接種回数（世界全体）



（備考）1. 感染者数は7日間移動平均の1日あたりの数字
2. オックスフォード大学資料より作成

2. ワクチン接種が進む欧米先進国

もっとも、ワクチンの延べ接種回数は国によって大きく異なる。なかでもイスラエルは世界最速ペースでワクチン接種が進んでおり、これに英国や米国、ユーロ圏加盟国といった先進国が続いている（図表2）。

（図表2）ワクチン延べ接種回数（上位国・地域）

	（100人あたりの延べ接種回数）				（100人あたりの延べ接種回数）		
	2月末	3月末	（差）		2月末	3月末	（差）
イスラエル	93.7	116.0	(+22.3)	EU平均	7.7	16.9	(+9.3)
UAE	60.9	84.0	(+23.1)	ドイツ	7.5	16.8	(+9.3)
英国	31.1	52.5	(+21.5)	フランス	6.7	16.7	(+10.0)
米国	22.5	44.9	(+22.4)	カナダ	5.0	15.1	(+10.1)
トルコ	10.1	18.8	(+8.6)	ブラジル	4.0	9.0	(+5.0)
スイス	9.3	17.8	(+8.4)	中国	3.7	8.3	(+4.7)
スペイン	8.2	17.2	(+9.0)	世界平均	3.3	7.7	(+4.4)
イタリア	7.2	17.0	(+9.8)				

（備考）オックスフォード大学資料より作成

ワクチン接種ペースが速いこれら国々では、他国に先駆けて集団免疫を獲得し、感染者数が減少に転じるとの期待がある。そこでワクチン延べ接種回数と1日あたり感染者数の関係をみたのが図表3である。これによると、英国や米国、スペインでは100人あたりの延べ接種回数が5回程度に達した頃から感染者数が減少へと転じており、他のユーロ圏加盟国も一時期

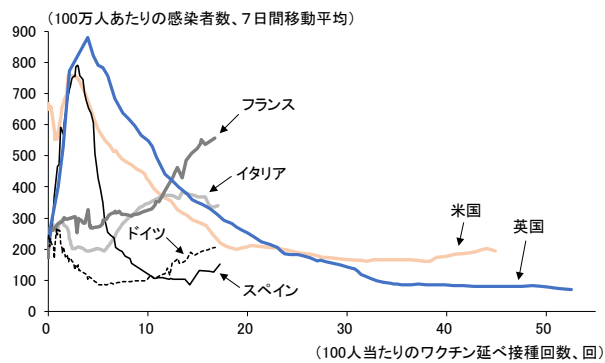
¹ 現在、接種が開始されているワクチンの多くは2回接種する必要がある。ゆえに、ワクチン接種が国民全員に行き渡るためには、計算上、100人あたりの延べ接種回数が200回に到達しなければならない。

と比べれば低い水準に抑えられている。ただ、世界最速で接種が進むイスラエルは延べ接種回数が 30 回を超えるまで感染者は減少に転じていなかった。また、政府の移動制限措置の厳格さを数値化した厳格化指数をみると、やや緩和したとはいえ、どの国も日本を上回る厳しい制限を続けている（図表 4）。

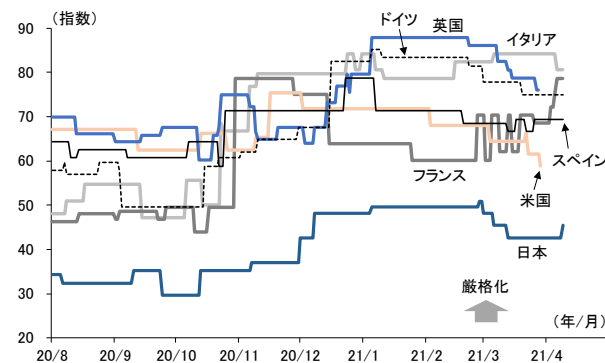
こうした点を踏まえると、欧米先進国では、ワクチン接種の進展による効果よりも、厳しい移動制限措置の継続による効果によって感染者数が低く抑えられている可能性が考えられる。

ここに来て、フランスなどでは感染力の強い変異株が広まっており、感染者数が増加傾向にある。ワクチン接種が進む中においても、当面厳しい移動制限を維持しなければ、感染者数が再び急増する可能性もある。

（図表 3）ワクチン延べ接種回数と感染者数



（図表 4）厳格化指数



3. ワクチン接種が遅れる新興国

一方、東南アジアやアフリカなどの新興国ではワクチン接種の遅れが目立つ（図表 5）。資金力のある先進国で優先的に接種が行われており、新興国には十分に行き渡っていない。そし

てこれら新興国の多くは医療体制が脆弱である。ワクチン接種の遅れによって感染が拡大すれば、早期にロックダウン（都市封鎖）などの強い制限措置に踏み切らざるを得なくなり、景気回復の大幅な遅れにもつながりかねない。

（図表 5）ワクチン延べ接種回数（下位国・地域）

(100人あたりの延べ接種回数)

	2月末	3月末	(差)		2月末	3月末	(差)
世界平均	3.3	7.7	(+4.4)	韓国	0.0	1.7	(+1.7)
メキシコ	1.9	6.1	(+4.2)	日本	0.0	0.8	(+0.8)
香港	0.3	6.7	(+6.5)	フィリピン	0.0	0.7	(+0.7)
インド	1.0	4.7	(+3.7)	南アフリカ	0.1	0.4	(+0.3)
インドネシア	1.0	4.3	(+3.3)	タイ	0.0	0.3	(+0.3)
豪州	0.1	2.6	(+2.5)	台湾	0.0	0.1	(+0.1)
マレーシア	0.0	2.2	(+2.2)	ベトナム	0.0	0.1	(+0.1)

（備考）オックスフォード大学資料より作成

このように、先進国と新興国におけるワクチン接種ペースの差は、今後景気回復ペースの差となって表れてくる可能性がある。新興国の多くは海外資金への依存度が高く、景気回復の遅れによって海外資金が引き上げられる事態となれば、新興国通貨の売り圧力が急激に高まる恐れもあり注意する必要がある（図表 6）。

（図表 6）対ドル為替レート（新興国・資源国）

(対ドル為替レート、月次平均、2019年12月=100)

	2020年												2021年			
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
インドネシア	102	102	92	89	94	99	96	95	95	99	99	100	100	97		
タイ	99	96	94	93	94	97	96	97	96	97	99	100	101	101	98	
フィリピン	100	100	100	100	101	103	104	105	105	105	106	106	106	105	105	
マレーシア	102	100	96	95	96	97	97	99	100	100	101	102	103	102	101	
ブラジル	99	94	84	77	73	79	78	75	76	73	76	80	77	76	73	
インド	100	100	96	93	94	94	95	95	97	97	96	97	97	98	98	
トルコ	99	97	92	85	85	86	85	81	78	74	74	76	79	83	76	
南アフリカ	100	96	86	77	79	84	86	83	86	87	93	97	95	97	96	
豪州	100	97	90	92	95	100	102	105	105	103	108	109	112	113	112	

（備考）1. シャドローは 20 年以降の最高値、白抜き文字は最低値
2. 数値が小さいほど自国通貨安。ブルームバーグより作成

4. 世界最速で接種が進むイスラエルに注目

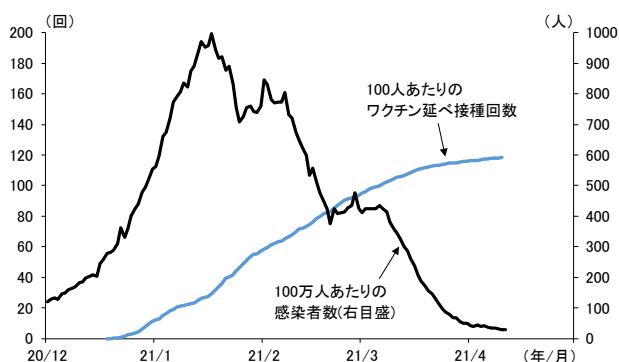
ワクチン接種の開始によって、世界各国はコロナ禍の出口へと着実に向かっている。しかし、ワクチン接種の進捗状況次第で悪影響が今後も続く予想されるほか、先進国との接種ペースの差が新興国経済にさらなるダメージを与える恐れもある。

こうした中、注目されるのが世界最速ペースでワクチン接種が進むイスラエルの動向である。同国のワクチン延べ接種回数は 4 月 10 日

時点で118回にまで達している(図表7)。そして2月以降の段階的な移動制限の緩和によって人出が大幅に増加しているにもかかわらず、感染者数は減少を続けていることから、集団免疫の獲得に近づきつつあることも分かる(図表8)。

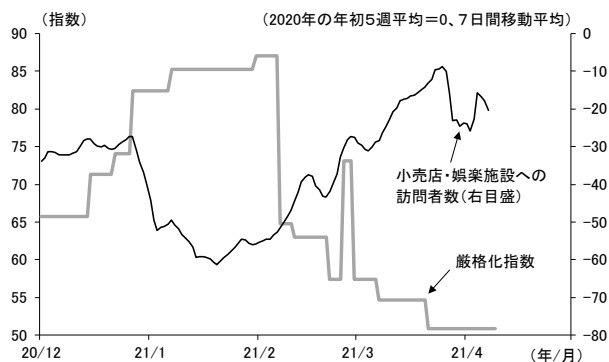
こうしたイスラエルの先例を参考に、世界各国がコロナ禍の出口で想定される経済・社会へのダメージを最小限にすべく、積極的な取り組みを続けることが重要となつてこよう。

(図表7) ワクチン接種回数と感染者数(イスラエル)



(備考) 1. 感染者数は7日間移動平均の1日あたりの数字
2. オックスフォード大学資料より作成

(図表8) 厳格化指数と訪問者数(イスラエル)



(備考) オックスフォード大学資料より作成

以上